

平成19年度環境技術実証モデル事業検討会
ヒートアイランド対策技術ワーキンググループ会合（第3回）
議事要旨

1. 日時：平成20年3月6日（木）10:00～12:00
2. 場所：砂防会館 3階 立山
3. 議題
 - (1) 平成19年度第2回WG議事概要について
 - (2) 平成19年度ヒートアイランド対策技術（建築物外皮による空調負荷低減技術）実証試験結果報告書の検討
 - (3) 実証試験要領の見直しについて
 - (4) 今後の検討スケジュールについて（予定）
 - (5) その他
4. 出席検討員：佐土原聡（座長）、足永靖信、近藤靖史、武田仁、森川泰成
欠席検討員：笠松正広、下田吉之
5. 配付資料
 - 資料1 平成19年度ヒートアイランド対策技術WG会合（第2回）議事概要
 - 資料2 ヒートアイランド対策技術実証試験結果（非公開、委員限り）
 - 資料2-1：光学的性能試験の結果
 - 資料2-2：複層ガラスの試験結果
 - 資料2-3：LESSCOMによる数値計算の結果
 - 資料3 ヒートアイランド対策技術実証試験結果報告書（案）（非公開）
 - 資料3-1：実証試験結果報告書（案）（窓用日射遮蔽フィルムの例）
 - 資料3-2：実証試験結果報告書（案）（窓用コーティング剤の例）
 - 資料3-3：実証試験結果報告書（案）（後付複層ガラスの例）
 - 資料4 実証試験要領見直しについて
 - 資料5 ヒートアイランド対策技術（建築物外皮による空調負荷低減技術）実証試験要領（素案）
 - 資料6 今後のスケジュールについて（予定）参考資料1 平成20年度環境技術実証事業実施要領（暫定版）
参考資料2 参考項目の算出方法について（通年の冷暖房低減効果）（非公開、委員限り）

6. 議事

会議は公開で行われた。

(1) 平成19年度 第2回WG議事概要について

- ・ 資料1を配付し、意見等については事務局が個別に受け付け対応することとなった。

(2) 平成19年度ヒートアイランド対策技術（建築物外皮による空調負荷低減技術）実証試験結果報告書の検討

- ・ 財団法人建材試験センターより、資料2（資料2-1～2-3）、資料3、参考資料2に基づき説明。
- ・ 冷房負荷の削減量は透過率が小さい（遮蔽係数の大きい）ことが寄与し、暖房負荷は還流率が大きいことが寄与すると考えられる。
- ・ もともとの暖房負荷の小さい条件での計算結果は、分母（フィルムなしのときの熱量）が小さいため削減率が大きくみえてしまう。削減量の絶対値を併せて評価すべきであり、表現方法について改善が必要であろうとの指摘があった。
- ・ 冷房負荷量とは実際には冷暖房負荷の削減量であり、正確な表現に修正すべきとの指摘があった。
- ・ オフィスの計算結果について、南側の窓近くが冷房負荷削減効果が顕著に現れるであろうとの考えで、部分的な値を示すこととなっていたが、実際には部屋全体としての削減効果を合わせて評価すべきではないかとの指摘があった。
- ・ 対象期間について、昨年までは期間限定の値及び通年での値（冷暖房期間は限定）を示していたが、通年で冷暖房を使用した場合の値についても併せて示した方がよい。その場合、昨年の試験結果との整合性に配慮が必要であるとの指摘があった。
- ・ 実証試験結果報告書については、指摘事項を修正の上、ワーキンググループとして了承し、今後環境省で承認の手続きに入ることが確認された。

(3) 実証試験要領の見直しについて

- ・ 事務局から、資料4、資料5に基づき、実証試験要領の見直しについて説明。
- ・ 試験結果報告書に掲載される写真について、立体的な被写体にした方が分かりやすいであろうとの指摘があった。
- ・ 照明負荷に関する注釈について、これではあいまいな表現となっており、何らかの条件のもとに影響が小さいことを判断したという根拠を示した方がよいとの指摘があった。

(4) 今後の検討スケジュールについて（予定）

- ・ 事務局より、資料6に基づき説明。

(5) その他

- ・ 特になし。

(文責：環境省水・大気環境局環境管理技術室 速報のため事後修正の可能性あり)